

京都橋

Chapter 1

「流々にふれること
で好奇心、向上心を
刺激し学ぶ意欲を
かき立てる」

111年の長い歴史を持つ京都橋高等学校を母体として2010年に開校した中学校。全員が国立大学進学を目標に、中高一貫コースの「Vコース」で学びます。

「新しい価値観（Value）を提案し、多様な価値観（Value）を尊重し合える生徒が育つように、「Vコース」と名づけました」

と語るのは、稲吉陽作校長です。難関国立大学合格を勝ち取る学力を養うとともに、未知の世界への扉を開き、多様な価値観に出会うための「ロボット出前授業」や、京都大学大学院の「花山天文台」での体験学習など、さまざまな取り組みを行っています。

期待値MAX!
注目校 NOW!

で五感を磨くことで、大学での学びにも対応し、かつ生涯を通じて活躍できる人物を育てるためのカリキュラム、好奇心、探求心を刺激するために、一流にふれる。これが大きなテーマとなっています。これらの成果が明確に現れるのが、夏期休暇中の「理科の自由研究」です」

（稲吉校長）

たとえば、プラナリアを半分に分けて再生させる。という自由研

究のテーマは、よくあるものだとはいえませんが、同校の生徒は、プラナリアを4つ、6つ、斜めなどに切って再生するか否か、再生する場合はどのように再生するかを根気よく観察します。

仮説を立てて独自の手法で結論を導く姿勢は、これまで「Vコース」で行われた、多くの取り組みで養われた探求心や自主性のためか、といえそうです。



ながら暗記する、という4通りの方法を考え、論証しました。この自由研究は、京都市サイエンスコンテストで入賞作品となったそうです。

自分の身の周りから課題を見つけ、

中高一貫コース『Vコース』1期生が 今春、高校に進学 大いに学び、成長しています

Chapter 2

高校「Sコース」の
国立大学合格率
90%の実績を
「Vコース」でさら
に伸ばす

6年一貫教育による国立大学進学を実現するための教科学習についてお話をいただきました。

「本校は長年、高等学校教育に携わって来ました。高校には難関国立大学を目指す「Sコース」、国立大学や難関私立大学を目指す「Bコース」、内部進学で個性を伸ばす「Aコース」の3コースがあり、「Sコース」には国立大学現役合格率90%という実



績があります。この実績を土台として、中等教育に長けた教員が加わり、本校独自の6年一貫教育メソッドを構築しています」

（稲吉校長）

「Vコース」は、中1・中2を第一ターム「知る」として、学ぶ楽しさを体験し、知的興味を喚起させて積極性を養う2年間に、中3・高1は、第2ターム「考える」として、「なぜ」という気づきを大切に、調査・分析・考察を通じて考える論理的思考力を養います。高2・高3は、第3ターム「行動する」として、自らの考えを主張するとともに、他者の考えを聞き、討論する力を養います。主要教科は、各タームのテーマを基本に授業を展開しています。



中高一貫校の場合、高校受験に代わる目標が必要です。同校では中3の総合的な学習の時間で「卒業論文」の制作に取り組みます。テーマは、「防犯」「睡眠」などさまざま。情報収集を経て実験、検証し、ていねいに論述された卒業論文は、まさに中学3年間の学びの集大成となります。

「現在、目標大学に焦点を合わせたクラス分けを中3で行っていますが、さらに最適な時期があると感じています。新しい中学校だからこそ臨機応変に対応し、世のため、人のために働く人物を育てたい。朗らかで元気な本校出身者が世界へ羽ばたき、未来を拓く日が必ずやって来ます」

（稲吉校長）

FOCUS

男女共学校としてスタートした
2000年、教育理念が「自立・共生」に

1902年に開校した高等学校は、1999年までは女子校として知られており、当時の教育理念は「女性の自立」でした。時代の流れをふまえて2000年に共学校として新たな歩み始める際に、教育理念の見直しを行いました。当

時の校長から先生方はもちろん、学校運営に携わっていた人々が、それぞれの立場で「共学校としての京都橋の教育のより所」を書きつづり、文集にまとめました。その文集を皆が読み、何度も議論し、「自立・共生」に決定したそうです。「宗教のある学校は教育理念が明確で、宗教教育を通じて生徒の倫理感を養っておられます。本校には宗教がありませんが、皆が熱い思いで、意見を交わし、議論を重ねた結果、「自立・共生」と決定しました。私もその議論の輪の一員でした。当時の文集は今も大切に持っています」

（稲吉校長）